

夢がないと面白くない

真光寺川を清流にする会 世話人 山口拓郎



「夢がほしいですね。何か夢がないと子ども達はついてきませんよ」と鶴三小の横山先生がおっしゃった。確かにそうだ。子ども達に川に帰ってきてほしいと云う思いから清掃作業を続け4年が経った。川で遊ぶ子ども達の姿を見かけるようになった。しかし子ども達のとつて夢がないと面白くないのだ。

「明日の日本を創る協会」のシンポジウムは我々に取って大きなチャレンジだった。気苦労も多くあったが収穫も大きかった。多くの方々の支援と協力に対する感謝の気持は言葉に尽くせない。

このところ水が冷たく清掃作業はできない。ゴミが目につくようになり歯がゆい思いだ。冬ごもりそれは夢を育む季節であろうか。11月から1月をふり返ってみたい。

11月

11月9日(日) 定期清掃日

午前中は清掃作業

午後からシンポジウムの最終リハーサル
下水道部の清水課長、和光鶴小の大川先生も出席下さる。

大川先生にはパワーポイントのソフト作成もお願いした。4年間の実績を納めた「歩み」も笠井さんが原稿を作成し高橋さんが印刷して出来上がった。

本番まで3日、立ち会った会員から色々ダメが出された。緊張した雰囲気の中に時間が経過した

11月10日(月)

鶴三小に伺い荒井校長先生にリハーサルの様子を報告する

11月11日(火)

「日本のあすを創る協会・全国フォーラム」第一日、全国から集まった方々と交流を深める。「歩み」を配りわれわれの分科会の案内をする

11月12日(水)

大会第2日、いよいよシンポジウム本番。全国からこられた方々が多く出席して下りはやばやと満席となる

大山さんの司会でパネリストのプレゼンテーション。入念なリハーサルの甲斐あってすべて順調。そして熱のこもった質疑応答、参考になる意見を多く頂いた

アツという間の3時間だった
終って乾杯! 持つべきはいい仲間である

このシンポジウムを通じて

1、学校プールのヤゴ救出作戦

2、EM菌による川の水浄化作戦

の示唆をえた

11月15日(土)

午後から市民フォーラムにおいて開催され

た「園師・小野路保全地域・里山研究会」の発表とシンポジウムに主席する。生物学の徒の地味だが真摯な取り組み。大いに啓発された。

18時から市民大学・環境講座。プログラム委員をしているので毎回傍聴させてもらうことにしている。テーマは「協働による流域再生」

終了後受講生の仲村さんが挨拶に見える名刺に「EM菌」とある。シンポジウムで出会った言葉だ。不思議な気持ちになり後日約する

11月22日(土)

鶴三小の「学芸会」にお招き頂いた体育館は時間前から父兄家族で満席であるやがて開始を告げるベル。舞台の上では舞う、歌う、叫ぶ、精一杯の演技が繰り広げられる

表情がいい、衣装がいい、しぐさがいいさぞ練習が大変だったろう。だがきっとそれぞれに大切なものを得たにちがいない。熱いものがこみ上げてくるのを覚えた

12月

12月5日(日)

細菌調査のサンプル採取を行う
従来、開戸親水、下堰親水、元真光寺駐在所跡の3カ所で採取していた。松前さんをお願いして「せせらぎの小径」を追加して頂き4カ所となった

8時30分我が家をスタート。途中ゴミを拾いながら行く。小田急線ガード手前の四阿周辺、それに開戸親水付近が特に多い能ヶ谷橋から上流は少ない。特に「平成橋」下手の小公園周辺はこのところ、めつかり少なくなった。きつと近所にお住いの淀さんが清掃して下さっているのだろう。

15時仲村さんが見えてEM菌の話をして

下さる。早速、12月の例会の午後お話し頂くことになる

12月14日(日) 定期清掃日

2003年最後の清掃作業、エコネット町田に加入の石川、三浦さん初参加、いずれも若い女性だ。それに成瀬台の和田さんも早速鶴見川、真光寺川の透視度と水質を測定してもらった。かねがね観測データをより正確なものにしたいと考えていた。和田さんはエンジニアだそうだ。これから引き受けてもらえそうで心強い。データ面でのレベルアップが計られそうだ

幸い小春日和、水はさほど冷たくない。清掃作業は捗った

午後、仲村さんが仲間の方3名と見えるM菌による「生ゴミ処理」について持参の容器を使用して具体的に解説。熱のこもった質疑応答が続いた

1月

1月10日(土)

読売新聞堀田記者取材にみえる

下堰周辺を案内する

1月11日(日) 定期清掃日

例会の日だが水が冷たくて清掃作業はできない。昨年開設された「鶴見川流域センター見学会」を行うこととなる

鶴川駅集合、町田經由小机へ。快晴、風は強いが爽快。ワールドカップの決勝戦で湧いた横浜サッカー場の一部。周辺は巨大な多目的遊水地となっている

岸先生の関係のNPOが管理されている担当の若い女性が丁寧に説明して下さる横山先生は「子ども達を連れて来て見せてあげたいですね」とおっしゃる

「華街へ移動。にぎやかな新年会。終わって山下公園棧橋、赤煉瓦倉庫街、みなと未来21の散策を楽しんだ

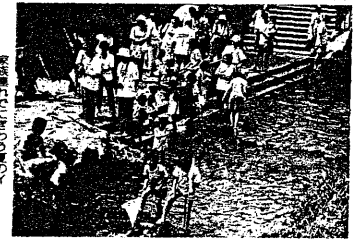
1月14日(水)

細菌調査水サンプル採取。いつものコースをゴミを拾いながら歩く。矢崎橋の下流の水面がどす黒く濁っている。油性の廃液だ散歩の奥さんも気遣おしげに覗き込んでいる。よく見ると川沿いの工場からどくどくと流れ出ている。二人で工場の表札を確かめると「富士テクノス(株)東京工場」とあった。環境部に連絡、調査をお願いする

1月28日(水)

水をもつときれいにしたい、EM菌にそれをかなえる可能性がありそうだ。3月例会後EM機構の説明を受けることにし仲村さんにご斡旋をお願いした。

「その前に一度真光寺川を見てもらいましょう」という仲村さんの意向で星野、塩谷



真光寺川清掃活動の様子

子供たちと一緒に清掃



町田市北部を流れる真光寺川で月1回の清掃活動を続け、子供たちや市民との交流も深めている。

4年前、市内の環境保護団体のメンバーで、真光寺川の近くに住む8人が結成した。全長約5kmの川は当時、汚れやごみが目立っており、「美しい流れを取り戻して子供たちに親しんでもらえるようにしたい」という願いからだった。

清掃活動では、自転車や家電品から空き缶・瓶まで、川に捨てられた大小のごみを取り除いてきた。メンバーは40人以上に増え、活動を知った近くの小学校から、児童が時々参加してくれるようになった。

今ではフナ、ドジョウ、ナマズなどの数が増え、水鳥も多くなった。小中学校から「観外学習の場所になりたい」と申し込まれ、子供

たちを相手に魚や鳥の観察会を開くこともある。

多様な生き物が戻ってきた川を多くの人に見てもらおうと、一昨年から年1回の夏のイベントとして「真光寺川まつり」も開いている。これまで2回のイベントでは、ウォークラリー、ミニ水族館などを企画し大勢の家族連れが訪れた。

この会がユニークなのは「真光寺川を清流にする会」という「応援団」を持っていること。会のメンバーは、「清流にする会」の活動内容について助言し、経済的な支援もする。九州や関西地方の人を含め約100人のメンバーがおり、毎年計10万円前後を寄付。お金は「まつり」の開催費などに生かされている。

商会の世話人を兼ねる山口拓郎さん(73)は「川を通じて地域の人が仲良くなり、環境保護で行政との協働もできればうれしい」と話している。

▼問い合わせ＝山口さん(会042-735-0382)。

暮らしの情報

さんが見える。女性の塩谷さんは獣医さんで鶴川在住とのこと。心強い。

矢崎橋から川沿いに歩く。ゴミが目につく星野さん磊落に「今まで見た川の中で最もきれいですよ。大丈夫、大丈夫」と太鼓判を押される。嬉しくなる

実験場所を広袴親水公園にするか、せせらぎの小径上流にするか子細に検討する

真光寺公園、観泉寺周辺を探索、更に中村さんが仲間と生ゴミ処理の肥料で栽培されている狐窪の実験農園みせてもらう

中村さん宅に伺い奥さんを交え熱心な検討が続いた。日がとっぷり暮れていた。

ほほを撫でる風はこころなしか柔らかくなってきた。下堰の辺りで翡翠を見た。このところゴミがやたらに目につくようになった。早くゴミを拾いたい、そう言う思いが日増しにつのる。もう春はそこまでやってきている。